Rd.7,8,9
SUZUKA
Race Report

2023 July 1-2nd

SEITA NONAKA

SUPER FORMULA LIGHTS

Helmet

SPONSORS

有限会社 坂下組
HIRANO TIRE
ASURA
OSUSO
CUBE CONSTRUCTION TOTAL SYSTEM
ピュアクリーニング Quality,Value,Ecology & Smile コインランドリー
Final Lap
autista RACING EQUIPMENT
air-J
LANDMASTER
KOBAYASHI DENTAL CLINIC
AUTOBACS 東浦和店
999.9
エンパイヤ自動車株式会社
Arai HELMET
SEV
Tipo
NAKANE CHIROPRACTIC
EXCEL Motorsport
SK MOTORs

シーズン折り返し ようやくかみ合う歯車

Practice

DRY→WET

前回菅生大会で見つけたセットアップの方向性を基にベースセットを決め、ドライでの走行を重ねた。
走り始めから調子がよく、ようやくハンコックタイヤの特性に合わせたセットアップにすることが出来た。
金曜日の午後はウェットコンディションでの走行となった。
ヨコハマタイヤのレインでの走行は昨年までのデータを基に調子よく走行を重ねた。
練習2日間を通してすべてのセッションでトップ３以内のタイムを出し、納得のいく状態まで車のセットアップを煮詰めることが出来た。
予選に向けて期待できる練習走行となった。

Qualify

DRY / Q1:4位 Q2:2位

雨が降るという予報もある不安定な天候の中、ドライでの予選となった。
路面温度がかなり低かったため、合わせこむようにセットを変更して出走。
Q1では車のバランスが大きく変わってしまい、アンダーステア傾向が強くタイムを伸ばすことが出来ず４番手で終了。
Q2に向けてさらにセット変更して出走。
前後バランスは改善され、マシンの調子は良かったものの、ベストラップの周は四脱のペナルティでタイム抹消され、惜しくも２番手で終了となった。

Race1

DRY→WET / 3位

スタート前から雨が降ったり止んだりの不安定な天候で、ドライタイヤを選択。
スタート直後のインシデントの影響でセーフティーカーが出ると、そのタイミングでピットインをしてレインタイヤに交換する選手もいた。この時点で２番手を走行。再スタート後は雨脚が強くなり、３台のレインタイヤ勢に先行を許す形となった。
レース中も路面コンディションの変化が激しく、レインタイヤ勢のうち２台をオーバーテイクするも再び雨脚が強くなり、もう１台は抜かせず３番手でチェッカーを受けた。

予選1

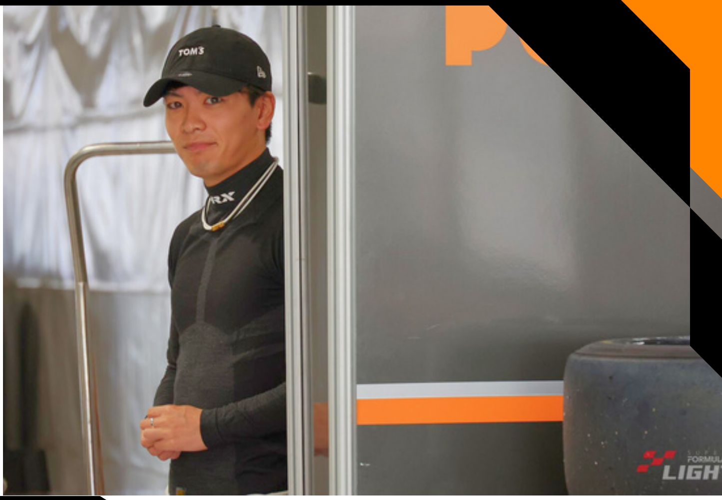
Pos.	No.	Name	Car Name	Time
1	1	平良 響	モビリティ中京 TOM'S 320	1'53.854
2	2	小出 峻	HFDP WITH TODA R...	1'54.152
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
4	35	野中 誠太	PONOS Racing TOM'S	1'54.201

予選2

Pos.	No.	Name	Car Name	Time
1	50	木村 偉織	HFDP WITH B-MAX	1'53.773
2	35	野中 誠太	PONOS Racing TOM'S	1'53.895

決勝Round,1

Pos.	No.	Name	Car Name	Gap
1	4	菅波 冬悟	JSM RACING with B-MAX	
2	1	平良 響	モビリティ中京 TOM'S 320	5.888
3	35	野中 誠太	PONOS Racing TOM'S	6.709



Race2

DRY / 3位

日付が変わったRace2では晴天の中２番手からのスタート。
優勝を狙うべくウィングを寝かせ、空気抵抗を減らす攻めた方向へセット変更。
しかしこれが裏目に出てしまいグリップ不足に悩まされ、後続車両を抑えるので精一杯となってしまった。
タイヤの摩耗も激しく、ミスが無いように走ることに集中し、何とか２番手を死守したまま周回を重ねた。
しかし最終ラップ、タイヤが厳しい中ミスが多くなり、シケインで抜かされてしまい３番手でのゴールとなった。

Race3

DRY / 3位

３番手からのスタート。
Race2でのデータからダウンフォースを増やすようにセット変更した。
良いスタートを切ることが出来ず、３番手のままレースが進行。
マシンのバランスが改善され、いいペースで前の選手を追いかける展開となった。
新品タイヤを履く前の選手をなかなか攻略できないままテールトゥノーズでオーバーテイクの機会をうかがう。
前の車両に近づくとダウンフォースが減ってしまい抜かすことが難しく、必死の猛追もかなわずそのまま３番手でのゴールとなった。

RESULT

決勝Round.2

Pos.	No.	Name	Car Name	Gap
1	1	木村 偉織	HFDP WITH B-MAX	
2	50	平良 響	モビリティ中京 TOM'S 320	7.310
3	35	野中 誠太	PONOS Racing TOM'S	7.495

決勝Round,3

Pos.	No.	Name	Car Name	Gap
1	1	平良 響	モビリティ中京TOM'S 320	
2	4	菅波 冬悟	JMS RACING with ..	1. 245
3	35	野中 誠太	PONOS Racing TOM'S	2.237

スポンサーの皆様へ

今回も多大なる応援ありがとうございました。
やっと調子を戻すことができ、3戦連続表彰台を獲得することが出来ました。
しかし詰めが甘い部分が多々露呈してしまい、優勝をつかみ取ることが出来ませんでした。
次回富士大会からはドライタイヤがヨコハマタイヤに変更となります。
ここまで苦しんできた分、車への理解は深まっているためここから取り返していきたいと思います。
シーズン後半に向け、エンジニアとのコミュニケーションを密に取り準備していきます。
ぜひ期待していてください。